



レジ袋の有料化が 10月1日からスタートします

足もとから環境を見直すきっかけとして、また誰もができる取組みとして、10月1日から市内のスーパーなどでレジ袋の有料化の取組みが始まります。地球温暖化防止と循環型社会の構築を目指し、地域全体でレジ袋の大幅削減を目指します。

石油からできている レジ袋

スーパーやコンビニなどへ買い物に行くと、大抵の場合レジ袋をもらうことができます。無料で手に入り、大量に捨てられるレジ袋について考えてみましょう。

レジ袋は、ポリエチレンやポリプロピレンなどのプラスチックでできています。プラスチックは、石油からつくられています。つまり、レジ袋は石油からできているのです。

国民1人あたり 年300枚を使用

なぜ、今、レジ袋が問題になっているのでしょうか。それは、レジ袋を使用することで、原料となっている石油を大量に消費したり、製造や焼却の過程で地球温暖化の主な原因となっている二酸化炭素が排出されたりするからです。

日本では年間に305億枚のレジ袋が使用され、乳幼児を除く国民1人あたり300枚ほどのレジ袋を消費している



市内の参加事業店舗ではレジ袋有料化をPR

ます。レジ袋を10枚製造するのに、牛乳瓶約1本分の原油が必要で、305億枚のレジ袋を製造するのに約55・8万kl（東京ドーム約0・5杯分）の原油を消費していることとなります。これは日本が年間に輸入する原油量の1日分弱をレジ袋に使用していることとなります。

豊かな環境を 子どもたちへ

今ある資源や物をどれだけ大切に使えるか。レジ袋削減（有料化）は私たちにできることの第一歩です。

「レジ袋をなるべくもらわずに買い物をする」「もったったレジ袋を何度も大切に使う」という気持ちが、環境にやさしい暮らし方につながります。子どもたちに豊かな環境を残すためにも、今使っている量の半分、3分の1でも減らしてみませんか？

マイバッグを 持ち歩こう

リサイクルされるごみの量が増えても、ごみ全体の量が減らなければ、環境にやさしい社会をつくることはできません。そこで、市民のみな

レジ袋削減(有料化) 参加店舗一覧

まず、できることから始めよう!



■レジ袋有料化参加事業者 (12事業者36店舗・順不同)

- ユニー(株)アピタ飛騨 高山店(食品関連売場)
- (株)駿河屋魚一 ピュア店・本町店・八軒町店・アスモ店(食品売場に限り)
- パロー高山店(食品スーパーに限り)
- JAひだAコープ店
- (株)主婦の店高山店
- パリュウ岡本店
- ファミリーストアさとう
- 食彩館・桐生店・石浦店・国府店
- モリー(株)東山店
- 酒のスーパーゴリラ けやき通り店
- 酒のホス コア21モール店・三福寺店
- 中部薬品(株)Vドラッグ
- 高山中央薬局・高山東店・高山南店・高山西薬局・国府店